

## 令和5年度 第3回女川町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時：令和6年2月20日（火） 13：30～15：00
2. 場 所：女川町生涯学習センター研修室
3. 報 告：（1）パブリックコメント結果について
4. 議 事：（1）女川町地域公共交通計画（案）
5. その他

### ■報告事項への議事概要

#### （1）パブリックコメント結果について

○事務局から（1）の説明後、以下の質疑をおこなった。

特になし

### ■議事概要

#### （1）女川町地域公共交通計画（案）

○事務局から（1）の説明後、以下の質疑をおこなった。

A委員

今回の計画に、ということではないが、目標4「みんなで育てる公共交通を目指す」という視点で、地域や企業と連携するとあるが、もう一つ言えば、住民に移動してもらうのか、そこにサービスを届けるのか、というところで最近、移動販売車とか、そういうものが、宮城県内でもだいぶ始まってきたという流れもある。ただ、いずれそういう届けるサービスに関しても、それぞれ個別にやっていると非常に効率が悪いので、その辺をまとめてサービスをしていく、移動サービスを一緒にやっていくというような、貨客混載になると言えばそうなるが、いわゆるそのサービスをどう住民に届けるのか、利用してもらうか、という視点でとらえていくことが近々必要になってくると思う。

特に半島や、出島のようなところは、いかにそのようなサービスを効率よく届けるとか、利用してもらうか、ということを考えなければいけないので、そのあたり、今後の課題、さらにこの先の課題ということになるが、そういう視点も持ちながら、進めていくことが必要なのかなと思う。

今回の計画に反映するという話ではない。

事務局

ただいまの意見については今後の交通を考えていく上でも重要なところと思っている。

地域内交通の再編というところの69ページで、貨客混載の導入検討と載せていたが、ここの交通のあり方という部分では、目標4で掲げているモビリティ研究会やそういうところで町内事業者の方や住民の方との意見交換等を設けて、そういった人の移動や物の移動をいろいろ協議や意見交換をしていければと考えている。ご意見いただいてありがたい。

会長

座長をしている私が言うのは、大変失礼ではあるが、きちんと準備して

この会に望めとお叱りを受けそうだが、実は少し加えた方がいいと私が思ったところがあった。現在の交通網計画を見ると、いろいろな目標があるが、その中に、観光との連携という視点も入っていた。確かに、公共交通というのは、住民の足ということでは非常に大事であるが、まちづくり、まちの賑わいおこしという観点では、いわゆるその二次交通という面も含めて、公共交通の重要性、役割の大切さというのが、引き続きあるのであろう、逆に言うと、それを残しておかないと、まちづくりに繋がっていかないのではないかと思い、JRさんとミヤコーバスさんは当然ながら、町民バスさん、タクシーさんのお力をお借りしながら、観光振興を、公共交通を使って、させていくという面も、この新しい計画の中に残しておいた方がいいのではないかというふうに思った次第である。

今日、皆様のお手元にお示ししているこの計画には、その視点が具体的には、実は記述をされていなかったもので、もしよろしければ、最終的な調整の中で、観光的視点、或いはもっと広げれば、産業の面から見た公共交通との役割視点というのを少し書き加えさせていただきたいと思う。

その辺もご意見等あれば、お聞かせいただきながら、他にもご意見いただければと思うが、いかがなものか。

A委員 多分、目標2のあたりに、今のものを書き込めばいいのではないかと思いますながら、聞いていた。観光に限らず、産業を支えていく、そういう公共交通でもあっていただきたい。

B委員 59ページについて、来年度に立地適正化計画を策定される予定ということで、公共交通計画とまちづくりの方の連携をこれから図ってくような形になると思うのだが、今後の女川町さんのまちづくりを踏まえて、公共交通というところのいろいろ目標等を立てられたが、どういった点に最も力を入れていきたいのかということのお話を伺いたい。2の政策の方とも絡んでくる話である。

事務局 本町の交通の部分としては、まず現状の公共交通の維持というところを第一と考えている。公共交通の維持をしていく上で、どうしてもやはり利用者数や、お金の方だと運賃収入等も影響してくるので、そういった維持活性化というところに力を入れていきたいと思っている。

C委員 9章の66ページの目標1から5のところ、各施策が記載されているが、その中で重点施策に●がついているが、目標5の利用しやすい環境を目指す、というところに●がない五つの目標があるのだが、重点施策の考え方をお聞かせいただきたい。

あと、1-3 離島航路の見直しということで、うちの方でもお手伝いさせていただいているが、出島架橋の方が今年年内に、完成供用の予定ということで、今進めているところで、これが、離島航路の見直しということでお考えなのか、少し具体的にどんなイメージなのか、現段階で、その辺の状況等をお聞かせできる範囲でお聞かせ願いたい。

事務局 まず、重点施策の考え方について。目標5に重点施策に●がない状況になっている。こちらについては、目標5の方が、今後の事業概要として、デ

デジタルサイネージやスマートバス停の導入検討、自動運転等というところで、先進技術の導入検討をしていきたいという目標項目を書かせていただいている。よって、先進技術ということで、今すぐに事業化できるというものではなく、今後いろいろな情報収集等をしながら導入検討をしていくという部分なので、重点施策としてのものではなくて●をつけていないというような状況である。

離島航路の再編の部分については、現在、並行して、女川町離島航路改善協議会という別の協議会が動いており、国、県、地域住民の方と話し合いの方をさせていただいている。

方針については、まだ計画を策定中で、確定はしていないが、航路については出島港・寺間港への寄港というのはおそらく廃止になるのかなど。女川港と江島港のみの直通の航路になるのかなというふうに思っている。その場合は出島については公共交通というものがなくなってしまうので、町民バスなどの代替交通の方へと並行して検討をしており、交通空白地帯がないような取り組み、施策の方を展開していきたいと考えている。

C委員 目標のイメージは分かった。公共交通の面でいろいろ新しい技術が大分進み、全国的にもかなり利用していて、特に地方部の公共交通に有効な新しい技術がどんどん出てきているという状況もあるので、ぜひその辺を最新の状況を踏まえて検討していただければと思うのでよろしく願いたい。

事務局 引き続き最新の技術を、また、各地域の状況等の情報収集をしながら、本町の公共交通についても、とり入れるものは入れて、よりよい利便性の向上に繋がるように施策を行っていきたい。

A委員 5-3 バリアフリー化の推進というところ。情報提供のアクセシビリティというところで書かれているが、バリアフリー化とその情報提供というところが、79 ページの方の説明で見れば何となく分かるのだが、若干、特に66 ページの表で見た時に、何か少し違和感があるな、と思った。これもバリアフリーというのかということと、バリアフリー化の中に含めるとしても、まず基本のバリアフリー化の話も一つ増やした方がいいのではないか。

事務局 まず、バリアフリー化を66 ページで少々イメージしづらいというご意見については、情報提供とバリアフリー化というところがなかなかイメージしづらいようなので、こちらは、記載の方法等を事務局の方で検討させていただきたいと思う。

また、ハード整備のバリアフリー化の部分については、現状ハード部分として整備できる、大きいところだと、JR女川駅とか離島港ターミナルというような部分と思っているが、こういったものは、バリアフリー化させた施設整備の方を行っており、今後大きな交通施設としてのバリアフリー化のハード整備は、多分見込まれないと思うので、今回こういった情報提供の部分だけの記載にしていたところである。

A委員 駅とかの整備についてはここだとは思いますが、この期間中にあるかどうか

は分からないが、例えば車両更新とか、新たなシステム導入といった時に、バリアフリーに配慮して車両選定など、そういうことができますよというぐらいの、引き継ぎ努力をしていきますよという意思表示ぐらいでもいいのかなと思った。

事務局 車両整備については、今後、町民バスの更新というものがある。こちらについてはステップなどを付けたり、バリアフリーへの配慮をしているので、継続して実施していくという文言の方は追加できるので、事務局の方で検討して、追記するような形で考えていきたい。

D委員 74 ページの 3-1 と 77 ページの 5-1 について。  
まず 74 ページの 3-1 について、ストープ列車やサイクルトレインを例として出しているが、そういったものはイベント列車になるので、その都度その都度のもので、その時点での判断があるので必ず書いてあるから全部できるという継続的なものではないというのはご了承いただきたい。今回入れているのは過去のイベント列車的なものなので、一過性というか、需要量が増えるというところまでいかないものかと思うのだが、まず、こういうところからやったらいいかなということで、声をかけてくれているのかなと思っているが、これを日常量につなげていくとか、次のステップについて何かもくろみみたいなものがあれば、お聞かせいただければと思う。

それから、77 ページの方で、交通結節機能の向上として一つ、デジタルサイネージ、スマートバス停の導入検討ということでこれは女川駅、浦宿駅と書かれているが、情報をいただければと思うので、よろしく願いしたい。

事務局 まず 74 ページの 3-1 J R 石巻線の維持・活性化について、ストープ列車等については例ということで記載をさせていただいた。こういった企画、イベント列車等を通じて、J R 石巻線や列車に乗るといような、意識づけをしていき、日常利用とか利用促進に持っていければというふうに考えている。こういったイベント等の企画と目標については、改めて、J R さんと協議をさせていただければと思っているのでよろしく願いしたい。

77 ページの 5-1 交通結節点の機能向上という部分について、デジタルサイネージやスマートバス停というところでは、ご意見いただいた通り設置場所によっては、各機関、女川駅・浦宿駅ですと J R さんと協議というのが出てくるかと思うので、そちらの導入検討の際にはいろいろ協議やご意見をいただければと思っているので、よろしく願いしたい。

A委員 ストープ列車とかサイクルトレインは、生活交通だけではなく観光を呼び込むとか交流人口を増やすということで、生活交通を維持したいという気持ちはよくわかるが、先ほどの、観光とか、そういう賑わい創出の方に取り組みを入れるということであれば、この 2-1 のイメージ戦略ということで、このストープ列車とかイベント列車を、そういう企画を協力しな

がらやっていくよという、そちらの方で書いてもいいのかなと思った。

事務局

先生がおっしゃる通り、今の部分に入れ込めることもあるが、やはりJR石巻線、JRさんの利用促進というのは、重点政策に書いてあるように、まだもくろみといった部分では、具体的な取り組みイメージというのはまだないが、これまでの役場でも、職員向けに、公共交通機関の利用促進をやってきた。この計画に具体的な記載はないが、これはもう継続する予定でもあるので残しつつ、こちらの方の記載ぶりを何か工夫させていただきたいと思うが、よろしいだろうか。

会長

イベント列車的な記述は別な項目に入れるということか。

事務局

そうである。

E委員

まず、前回も今回もそうだが、やはり事前に、早めに資料を配ってもらわないと、急にもらっても全然わからない。

次に、計画を立てるにあたってのアンケート調査の回収率が非常に悪いと思う。回収率が悪いと精度が下がることになると思う。例えば半島の方で、20~30件アンケートを出して、回収率が2~3件と書いてあるわけだが、それがその地区の意見として反映されて出てくることになる。だからその辺、回収率を上げるようお願いしたいと思う。郵送にする方法は、それはそれでいいのだが、震災後ポストそのものが町内に少ない。ポストのある場所が、例えば体育館とか病院とかで、ポストが少ないので高齢者にとってはアンケートを出すのが不便だな、という感じがした。例えば、各地区に集会所があるので、集会所に日時を決めて回収する方法というのも考えられないかなと思った。

それから、住民からの意見の聴取ということで、社協の会長さんから、社協の方でも地区座談会なんかしているという話があった。社協の方でも、地域福祉活動計画策定の素案を策定しているが、その地域福祉活動計画の上位計画が地域福祉計画である。

この間の座談会の状況をもたらってきたが、やはり同じような、「町民バスの時間が合わない・乗車できない」とか、「足の筋力が低下してバスの乗降ができず利用できなかった」とかいうことである。

それからタクシーも結構ある。「夜間タクシーが使えず緊急の際に移動手段がない。」「タクシーが少ない。」「タクシーを呼んでも来てくれない。」というようなことが多い。

事務局

まず、資料の提示の方が遅くなってしまい、大変申しわけない。今後、事前にお示しできるように、事務局としても資料作成等を行って参りたいと思うので、よろしく願いしたい。

アンケートの回収の方は、こちらは町民バスのない地域にアンケートの回収箱を設置したり工夫をしてはいたのだが、なかなかアンケートの回収率が伸びていないという状況である。ここも、いろいろ方策を検討しながら、ご意見いただいた集会所の回収箱設置なども各区長さんと連携を図りながら対応できるところはして、アンケートの回収率の増加というところ

へ努めて参りたいと思う。

社協との連携という部分については、今回の交通計画についても、本町の地域福祉計画との連携ということで、公共交通の役割というような部分の整備をしている。今後、引き続き、地域福祉計画、また社協さんの方と連携しながら、地域の公共交通というようなところで、利便性の向上に努めていきたい。

会長

黄金タクシーさんのご意見はどうか。

F委員

震災後、泊まり勤務というのをなくして今の状態になり、労働時間の関係もあって、平日は8時から22時までの勤務体系となっている。それだけでも結構な残業時間になる。それでここ何年か長く見ても、夜、お客さんがいないし、少ない。結局飲食店も少なくなって、それで22時まで7台動いているとしたら、7台を22時までおいておくわけにはいかない。

1回も来ない部分もあるし、そこは難しいところで、何年かデータを取って、こういう勤務体系にしたのである。土日に至ってはほとんど仕事なくなるので、夜8時頃で全部締める。そうしないと労働時間もつくれなくなる。泊まり勤務がないので、今、そういう状態ということである。

G委員

私は社協としてではなくて個人的に、せつかく地域交通の運行をやっているが、いわゆる持続性を心配している。

どこかで、利用者が少なかったとか、経済的にどうだとか、これは無理なのではないか、というようにならないように、もう少し利用者は増えて欲しいと思う。どうやって増やしたらいいのだろうかということを見ますと、社協の座談会でもあったように、足が不便でいけないとか、こうだとか、いうようなことばかりではなく、もう少しPRできる。

利便性に加えて、PRだとか、こういう面だとかということをやっつて、長く、せつかく作ったものなので、それを個人的には心配している。不満は、皆さん年を取ると我々と同じである。不満は、タクシーがどうのこうのと言われるのはそれはどうしようもないことである。ただ、持続可能なことをぜひやって欲しいなと思っている。

何かいい方法が見つからないだろうとかというようなことで、利用者の数を、ぜひ増やして欲しいと思っているのは偽らざる意見である。

会長

非常に貴重な大事なご意見である。我々も、今までも努めて参りましたが、さらに何とかいい知恵があれば、皆さんからもいただきながらやっていきたいと思う。

H委員

バリアフリー化の話もあったので、車両更新とか、当社の方で4台、車両を提供していて、うち3台が15人乗りで1台が10人乗りなのだが、やはりステップの関係で15人乗りの方に乗るのが、少ししんどいというお客さんもいらっしゃる。次回の車両更新の際は10人乗りの方にした方がいいかと思っている。

あと、83ページの計画の評価指標、5番目の利用しやすい環境を目指す、路線図や時刻表の分かりやすさ（利用者アンケート）で、現況

10.4%ということなのだが、私が見る範囲では、すごくわかりやすい路線図と時刻表になっていると思う。やはり乗車される方の年齢層が80代90代と、また認知症の方もいらっしゃるの、どこのバス停で降りるかというのも出てこないお客さんもいらっしゃる。なので、この指標を25%に目標値として挙げるとするのは、なかなか至難の業なのではないかと率直に思う。

会長 実際に運行されている中での実績の話は本当に貴重なお話ありがたい。目標が25%で大丈夫かというご意見もあるが、ここは、とにかく目標に向かって頑張っていきたいと思うので、皆さんのお力添えをいただきたいと思う。

会長 それでは皆様から今いただいた意見等を、次の計画に係る部分もあったが、きちんと忘れないで取り組んでいきたいと思う。修正する分については修正をさせていただく。

もしよろしければ、もう1回、修正したものを皆さんにお集まりをいただいて確認していただくという方法もあるが、よろしければ私会長と会長代理にお任せをいただいて、最後の本番修正を我々でやらしていただくということでよろしければ、そうさせていただきたいのだが、いかがなものか。

最後責任を持って、修文するなりして、最後の原案を作っていきたい、案を作っていきたいと思う。完成したら、また皆様に、こういう形で最終計画ができましたということで、ご報告をさせていただく。これは多分郵送になるかと思うが、そのようにご了解いただきたい。

## (2) その他

会長 またお気づきの点があれば、事務局の方に電話なりメールでも結構なので、教えていただければと思う。よろしく願いしたい。

会長 非常に皆様から貴重なご意見をいただき、何とか最後の計画という形でつくれるかな、という状況になった。大変ありがたく思っている。

これから最終作業が入るが、3月の末には、この新しい計画を完成させたいと思っているので、ここ1ヶ月ぐらいで作業させていただき、こういう形になりましたということで、ご報告をさせていただきたいと思う。

事務局 本日の会議の経過については、町の条例に基づきまして、町のホームページにおいて公開させていただき、よろしく願いしたい。

以上